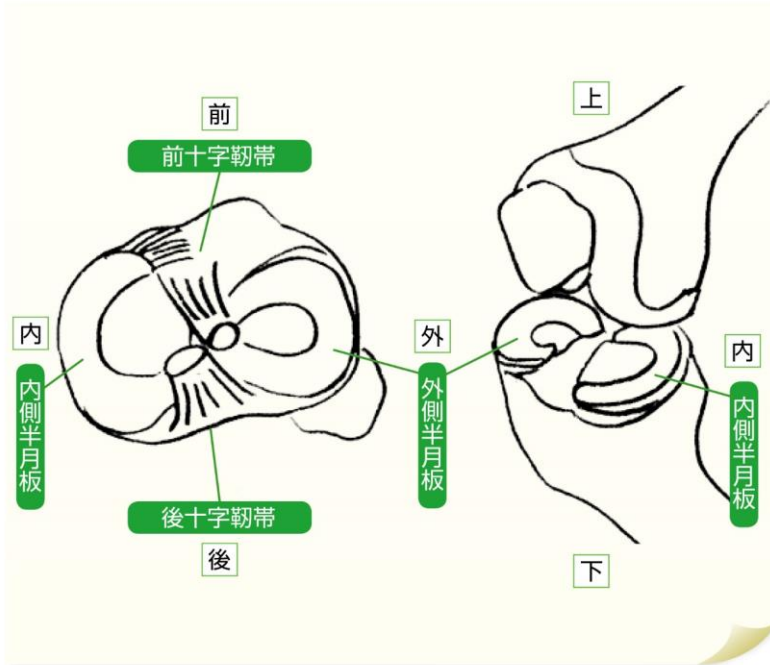


下肢の外傷疾患

北アルプス医療センターあづみ病院
整形外科 医師 長

狩野 修治



整形外科の狩野修治です。2015年7月よりあづみ病院へ赴任しました。以前にもあづみ病院には2回勤務させていただき、また戻ってまいりました。今回から12回にわたり、この「きずな」で下肢の外傷について紹介をしていきたいと思えます。

第1回は半月板損傷について紹介します。

半月板とは

半月板は膝関節の間にある線維軟骨という軟骨でできた組織です。下腿側の骨である脛骨の関節面の辺縁を覆うような形で内側、外側に存在しています。膝の関節としての安定性や荷重を分散、吸収させるといった機能をもっています。

半月板損傷は運動時に膝をひねった時に損傷することがおおく、半月板の一部が膝関節間に挟まった状態でひねられることによって断裂してしまいます。断裂の形によって縦断裂、横断裂、水平断裂、弁状断裂などに分類されます。

症状

半月板損傷の典型的な症状としては階段の昇り降りやしゃがみこむ動作などの運動時の膝痛や膝のひっかかり感



などがあげられます。また断裂した半月板が挟み込まれてしまうとロッキングといって膝をまげたまま動かすことができない状態になってしま

ことがあります。通常の単純レントゲン写真ではわかりませんが、MRIで膝関節を撮影すると半月板の

断裂の有無、断裂の形態、また半月板自体が変性といっていたんであるかどうかなどを調べることができます。ただし半月板損傷は無症状のことも多いとされており、50歳以上の女性19%、男性33%に半月板損傷をみとめたという報告もあります。診断にはMRIによる画像検査だけでなく、臨床症状とあわせた総合的な判断が必要となります。

治療方法

治療方法ですが、若年者のスポーツ外傷では半月板の辺縁の断裂が多く関節鏡を使用して縫合することができます。しかし中高齢者などの半月板はすでに傷んでいることが多く、縫合術は行えないため膝関節鏡を用いた半月板の部分切除を行うことが多くなります。ただ、前述のように

半月板は膝の安定性や荷重の分散・吸収といった大切な機能をもっているため切除してしまうと膝関節自体への負荷がふえてしまいます。このため将来、関節軟骨がいたんでしまい変形性膝関節症になってしまう可能性があります。このことから可能であれば半月板の縫合が望ましく、切除するとしても最小限の部分切除が望ましいと考えます。まずはいわゆる痛み止めといわれるような非ステロイド性抗炎症薬などの内服治療や下肢のストレッチなどの運動療法といった保存治療を行ったうえで、症状が続いている、繰り返すような場合は、半月板の部分切除を最終的に考えていくことになります。詳しくは外来を受診していただき、ご相談いただければと思います。